

予備費に千八百万円

特対委
で了承

水俣病の総合調査

自民党水俣病対策特別委は八日午後一時から院内同党政調審議室で、第二回日の会合を開き、水俣病総合調査に関する経費、水俣湾のしゅんせつとこれに伴う袋湾の埋め立て問題を審議した。

関係者として企画庁、運輸省、水産庁、厚生省が出席、七日経企庁がまとめた各省の総合調査予算のうち三十四年度予備費要求として企画庁五百八十二万九千円、水産庁百一十二万六千円、厚生省七百九

十万三千円、通産省三百八十七万八千八百七十七万八千円を了承した。

このうち千七百五十九万二千円を新しく大蔵省へ要求、水産庁の百一十二万六千円は予算の横すべりとなっている。しゅんせつ、埋め立て問題について運輸省港湾局計画課が、同水域内の沈んでん泥十畝を調査するため三百五十二万五千円の予算要求案を発表、調査の結果を企画庁と

協議し、水質検査の資料にする方針だが、その具体的方法については検討中である。

また、これを農林省農地局の干拓事業として行なうか、運輸省港湾局の事業として行なうかは未定で、党としてはあくまでも埋め立てる方針なので地元県に対しても十分検討するよう要望された。

(東京支社)